

水稻の適期刈穫を実施しましょう！

令和2年8月28日

加須農林振興センター

今年は、7月に長雨・寡照が続いたため、早期・早植水稻の出穂はばらつきが大きく、平年より2～3日遅いほ場が多くなりました。普通植水稻は梅雨明け以降の高温により、出穂は概ね平年並みとなっています。

気象庁の8月27日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わり、平均気温が平年より高い確率80%で、9月上旬までの気温はかなり高くなる見込みです。今後も引き続き、適切な水管理や刈り遅れに注意して、良質米を収穫しましょう。

○早期落水を避け、根の活力維持と登熟の向上を！

出穂後30日までは、引き続き湛水と落水を定期的に繰り返す**間断かん水**を行い、根の活力維持に努めてください。早期落水すると、白未熟粒の発生や登熟阻害を助長します。用水が早く停止する場合には、停止前に湛水して水を止めて自然落水とし、**土壌水分を維持**するようにします。

なお、**台風接近時には深水管理**とし、台風通過後の風が収まったら通常の水管理とします。

○適期の刈り取りを！

刈り遅れは、胴割米や茶米の発生を助長します。今年はお穂がばらついたため、今後高温が続いた場合、籾の退色が玄米の成熟より遅くなり、**帯緑籾割合による収穫適期の判断が難しくなる可能性があります**。ほ場をよく観察し、**立毛籾水分が25%以下**になり、**登熟積算気温に達したら早めに収穫**しましょう。

コンバイン、乾燥機等の清掃や点検等、早めの準備を心がけましょう。

○適正な乾燥調製で品質向上を！

急速な乾燥は胴割米の発生を招きます。**適正な送風温度で乾燥**しましょう。

籾水分が高い**乾燥初期は高温乾燥を避け**ましょう。

適正な玄米水分になるよう**均一に仕上げ**ましょう。

過乾燥にならないように注意しましょう。

刈り取りの目安（8月28日現在）

（8月27日までは令和2年の気温、8月28日からは平年気温から登熟積算気温を計算し、収穫適期を推定しました）

品 種	作型等	登熟積算 気温	帯緑粳 歩合	出穂期	収 穫 適 期	
					熊谷地方气象台 の気温で 計算した場合	久喜アメダス の気温で 計算した場合
コシヒカリ	4月～ 5月植	950～ 1,150℃	15～ 10%	7/20	8/23～8/30	8/24～8/30
				7/25	8/28～9/3	8/28～9/4
				7/30	9/1～9/8	9/2～9/9
				8/5	9/8～9/15	9/8～9/16
彩の きずな	5月植	900～ 1,200℃	50～ 10%	7/25	8/26～9/5	8/27～9/6
				7/30	8/31～9/10	8/31～9/11
	6月植	900～ 1,100℃	40～ 15%	8/5	9/6～9/13	9/6～9/14
				8/10	9/12～9/19	9/12～9/20
彩の かがやき	5月植	910～ 1,110℃	90～ 45%	8/10	9/12～9/19	9/13～9/20
				8/15	9/18～9/26	9/19～9/27
	6月植	1,010～ 1,250℃	55～ 25%	8/20	9/30～10/11	10/1～10/12
				8/25	10/7～10/19	10/8～10/20

※登熟積算気温とは、出穂期以降の日々の日平均気温を合計した数字のこと。

※帯緑粳歩合とは、一粒ずつ粳を丁寧に見て緑色が残る粳の割合のこと。

※出穂期とは、ほ場全体で全穂数の40～50%の穂が出た日のこと。

○収穫後は早めの耕うんを！

収穫後の稲株は、縞葉枯病等を媒介するヒメトビウンカや、斑点米の原因となるカメムシ類の越冬場所となりますので、収穫後、早めに耕うんを行います。早めの耕うんは、台風等の大雨による稲わら流出の防止にも効果的です。

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）が発生したほ場では、収穫後の土壌が硬い時期に、深度は浅くて良いので、ピッチを小さくし、通常の1/2以下の作業速度で耕うんすると、効果的に貝を殺すことができます。